

製品名: コラーゲン XI α 1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09219**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	180kDa

抗原情報

遺伝子名	COL11A1 COLL6
別名	Collagen alpha-1(XI) chain
遺伝子 ID	1301.0
SwissProt ID	P12107
免疫原	ヒトコラーゲン XI α 1 由来の合成ペプチドポリクローナル

背景

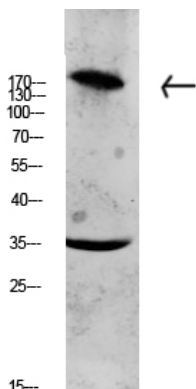
XI 型コラーゲン α 1 鎖 (COL11A1) ホモサピエンス この遺伝子は、XI 型コラーゲンの 2 つの α 鎖のうちの 1 つ、つまりマイナー線維性コラーゲンをコードしています。XI 型コラーゲンはヘテロ三量体ですが、3 番目の α 鎖は翻訳後修飾を受けた II 型 α 1 鎖です。この

遺伝子の変異は、II型スティックラー症候群およびマーシャル症候群と関連しています。この遺伝子の一塩基多型は、腰椎椎間板ヘルニアの感受性とも関連しています。この遺伝子には、複数の転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2009年11月]、代替製品: 追加のアイソフォームが存在するようです。エクソン IIA またはエクソン IIB の代替用法があります。エクソン IIA または IIB を含む転写産物は軟骨に存在しますが、エクソン IIB は腱の転写産物で優先的に利用されます。疾患: COL11A1 の欠陥は、マーシャル症候群[MIM:154780]の原因です。マーシャル症候群は、眼、口腔顔面、聴覚、骨格の症状を伴う常染色体優性疾患です。顔面中層低形成、高度近視、感音難聴など、スティックラー症候群といくつかの特徴を共有しています。疾患: COL11A1 の欠陥は、スティックラー症候群 2 型 (STL2) [MIM:604841]の原因です。スティックラー症候群 2 型硝子体疾患としても知られています。STL2 は、スティックラー症候群の常染色体優性型です。スティックラー症候群は、ピエール・ロバン配列のほぼ完全な形態に伴う眼症状、骨疾患、感音難聴を呈する遺伝性疾患です。眼疾患には、若年性白内障、近視、斜視、硝子体網膜変性症または脈絡網膜変性症、網膜剥離、慢性ぶどう膜炎などがあります。ロビン症候群には、口蓋裂 (口蓋裂)、舌の巨大化 (巨舌症)、下顎の縮小 (小顎症) が含まれます。骨には、軽度の扁平脊椎症や、しばしば欠損を伴う大きな骨端線形成障害がみられます。若年性関節弛緩症に続いて、関節症の初期症状が現れます。難聴の程度は個人差があり、時間の経過とともに悪化する可能性があります。症候群の表現度はさまざまです。機能:コラーゲン II 原線維の横方向の成長を制御することにより、原線維形成において重要な役割を果たす可能性があります。PTM:トリペプチド繰り返し単位の 3 番目の位置のプロリン(G-X-Y)は、一部またはすべての鎖で水酸化されています。類似性:線維性コラーゲンファミリーに属します。類似性:1 つの TSP N 末端(TSPN)ドメインを含みます。サブユニット:3 つの異なる鎖、アルファ 1(XI)、アルファ 2(XI)、およびアルファ 3(XI)で構成される三量体。アルファ 3(XI)は、アルファ 1(II)の翻訳後修飾です。アルファ 3(XI)=1(II)の代わりにアルファ 1(V)も見られます。組織特異性:軟骨、胎盤、および一部の腫瘍またはウイルスによって形質転換された細胞株。エクソン IIA または IIB を使用するアイソフォームは軟骨に見られ、エクソン IIB のみを使用するアイソフォームは腱に見られます。

研究分野

焦点接着;ECM-受容体相互作用;

画像データ



CACO2 溶解液のウェスタンブロット分析、抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。